

第2回茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会 (WEB会議) 会議録

議題	<p>1. これからの時代における文化生涯学習行政のあり方と持続可能なまちづくりに向けた成果活用について</p> <p>2. その他</p>
日時	令和4年11月21日(月) 14:45～16:45
場所	市役所分庁舎5階E会議室
出席者	<p>(WEB会議により出席予定)</p> <p>野田邦弘委員長、山口佳子副委員長、 清水友美委員、大島光春委員、加藤幹雄委員、 岩本一夫委員、沼上純子委員、都浩一委員、 入江観委員、井上由佳委員、伊藤隆治委員</p> <p>(欠席)</p> <p>嶋田典子委員、豊嶋ときわ委員、金田雅恵委員</p> <p>(事務局) 文化生涯学習課 村上文化生涯学習部長、石井文化生涯学習課長、 井上課長補佐、粟生田課長補佐、平野課長補佐、 田中副主査、篠崎主事</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 資料1 これからの時代における文化生涯学習行政のあり方と持続可能なまちづくりに向けた成果活用について(答申案) ・ 資料2 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会規則 ・ 資料3 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会委員名簿
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	—
傍聴者数	0人

○事務局（石井文化生涯学習課長）

本日はお忙しい中、WEB会議形式での令和4年度第2回文化生涯学習プラン推進委員会に御参加いただき、ありがとうございます。今回は、対面式での会議開催を予定しておりましたが、8月に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大状況をふまえ、できるだけ人流を避けるため、野田委員長と御相談させていただき、WEB会議での開催とさせていただきます。

本日、文化生涯学習課からは、村上文化生涯学習部長をはじめ、井上課長補佐、栗生田課長補佐、平野課長補佐、田中副主査、篠崎主事、そして文化生涯学習課長の石井が出席をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

では、会議に先立ち、村上文化生涯学習部長から御挨拶いたします。

○村上文化生涯学習部長

本日はお忙しいなか、御参加いただきましてありがとうございます。このところコロナの感染が落ち着かない状況になっていまして、本日も感染拡大防止の観点も含めまして、オンラインでのリモート会議となりました。そのような状況のなかでも、多くの方に御参加いただきいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

本日は、これからの時代における文化生涯学習行政のあり方と、持続可能なまちづくりに向けた成果活用ということで御意見を頂くわけでございます。御参加のみなさまそれぞれのお立場で、様々な御意見あろうかと思えます。今までと同様引き続き、専門家の皆さまから様々な御意見を頂きまして、有意義な時間となることを期待申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（石井課長）

それでは、議事を進めさせていただきます。現在オンラインにて8名の委員の御出席をいただいておりますので、茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会規則第5条第2項に定める開催要件を満たしておりますことを御報告いたします。このあと伊藤委員、井上委員、清水委員も御参加いただけることになってございます。

なお、本日の委員会ですが、茅ヶ崎市自治基本条例第14条第3号の規定により審議会等の会議は公開とすることが原則となっておりますことを御承知おきください。また、本日は傍聴の申し出はございません。

それでは、議事進行につきましては、委員会規則第4条第3項及び第5条第1項の規定により、野田委員長にお願いいたします。

○野田委員長

今日の議題は2つです。1番目は、これからの時代における文化生涯学習行政のあり方と持続可能なまちづくりに向けた成果活用について、2番目はその他となっております。それで

は、会議をはじめますが、会議の進め方として、発言者以外の方はミュートをお願いさせていただくのと、発言の際は、挙手ツール等を使用し、私から御指名させていただいた方にお話をいただくというお約束事で進めさせていただければと思います。

まず議題1の「これからの時代における文化生涯学習行政のあり方と持続可能なまちづくりに向けた成果活用について」。事務局から説明をお願いします。

○事務局（平野課長補佐）

では、議題1について、御説明いたします。「資料1」を御覧ください。市長からの諮問である「これからの時代における文化生涯学習行政のあり方と持続可能なまちづくりに向けた成果活用について」の答申案でございます。第1回及び第2回の委員会で熱心に御審議いただいた結果に、その後更にいただいた貴重な「意見書」を反映させて、まとめさせていただいております。

概略を申し上げます。2ページ「目次」をお開きください。「第1章 これからの時代における文化生涯学習行政のあり方について」としまして、これまでの文化生涯学習施策の背景や国の動きなどについて掲載させていただいております。

そして2つ目として第1章を踏まえ、また第1回及び第2回の委員会にて御審議いただいた内容を反映させた「これからの文化生涯学習行政のあり方について」として本市の今後の文化生涯学習施策の方向性を、図でお示しております。

続きまして、具体的な施策として「第2章 重点的に取り組むべき施策とそのあり方について」として既存からの「1 定例的・継続的な文化生涯学習施策」、そして、これからの新しい施策である「2 新たな文化生涯学習施策」を記載させていただき、その両輪で展開された施策に対して「第3章 効果的な評価の仕組みについて」の中で効果的な評価を行う仕組みについて記載した構成となっております。

具体的にお話ししますと、6ページをお開きください。「第1章 2 これからの文化生涯学習行政の考え方について」ですが、図にありますとおり、「定例的・継続的な文化生涯学習施策」は、現在までの間に、市の財政健全化の取組等の影響により、事業費の削減等、必要最低限のラインまで縮小されました。

しかし、これからは、「定例的・継続的な文化生涯学習施策」をこれ以上縮小することなく、既存の文化資源の価値を最大限活用し、新たな文化生涯学習施策を実施すべきとしています。また、図の上段に位置する「新たな文化生涯学習施策」が生み出した新たな価値は、定例的・継続的な文化生涯学習施策に還元し、2つの施策が両輪となって、価値の提供、還元というサイクルを経ながら、茅ヶ崎の文化生涯学習の充実・発展及び将来に向けて持続可能な創造的まちづくりにつなげる必要があります、となっております。

次に8ページ以降では、第1章に基づき、重点的に取り組むべき施策とあり方について提案されております。第2章中の「1 定例的・継続的な文化生涯学習施策」の中で、「文化生涯学習の担い手・主役は市民である」という基本的な考え方に基づき、より市民が活

動・活躍しやすくなる環境づくりに引き続き着実に取り組むため、現プランの「行動目標」に紐づく「施策の方向」の継続が必要です、となっております。

続きまして、10ページ以降の「2新たな文化生涯学習施策」では、まさしく、新たな価値を生み出す効果的な戦略に取り組まなければ、この先は「先細りの未来」になると考えられるので、現状と課題を打破するために、既存の文化資源の価値を活かし新たな価値を創出する「創造都市」の形成を目指して戦略的に事業を展開すべきとなっております。

最後に、第3章では、効果的な評価の仕組みについて「評価する目的「それにふさわしい指標は何か」「評価の結果をどう使うのか」を明確にし、効果的な評価の仕組みを設計すべきとしています。以上となります。

○野田委員長

ありがとうございました。概略の形をとっていますが答申の案について事務局から説明がありました。みなさんから御意見、補足等があれば御自由に御発言をお願いします。

○山口委員

具体的には、色々と考えられていて答申としてまとまってきたのかなと思っています。6ページの「2 これからの文化生涯学習行政の考え方について」ですが、右上の吹き出し部分、「本施策が成功すれば～」とありますが、成功すればという仮定でないほうが良いのではないかと感じました。以上です。

○野田委員長

「成功すれば」、という表現を、「本施策により」、などに変えたほうが良いということですね。成功したわけではないのでね。他にどなたかありますか。

○加藤委員

全体としたら山口委員がおっしゃったように、言葉として分からないものもありますので、6ページの7行目のところ、「領域横断的に働きかけて」とありますが、もっとイメージしやすいように。そして9ページの5行目、「小中学校では「G I G Aスクール構想」が」とありますが、はじめて読んだ人はG I G Aスクールが良く分からないと思います。

○野田委員長

6ページのところは確かにわかりにくいところがあります。例えば他の分野、具体的に福祉とかあげながら補足したほうが良いと思います。具体的な領域名を2つ3つ出して、領域横断的に、つまり文化生涯学習に閉じこもらないということですね。G I G Aスクールについては脚注つけるなりしてください。

○入江委員

前回の協議で気付くべきところでしたが、5ページ、「社会的・経済的価値」のところですが、「文化芸術は、新たな需要や高い付加価値を生み出し、質の高い経済活動を実現するものであること。」とありますが、具体的にどういうことをイメージしていますか。

○野田委員長

一般論として言っています。質の高い作品、例えば演劇、映画、絵画など創造する文化的価値がこれまで以上に経済的価値創出にもつながっていく時代になっていくのではないかとされています。文化や芸術が産業、経済とより密接につながっていく社会になっていくその意味でも、市民の自主的な文化活動をきちんと支えていく体制、環境づくりが必要になってくるということです。

○入江委員

御説明うかがって分かりましたが、できればもう少し具体的に、文化芸術というところで、例えば演劇や美術など、具体的な名称が入っていたほうが、文章が納得しやすいのではないかと思います。

○野田委員長

ありがとうございます。工夫します。他の皆さんありますか。

○加藤委員

同じような話ですが、11ページ9行目、「しかしながら現状は、市では市内各課に文化資源の所管が分散し、市民から見て分かりにくく、総合力を発揮しにくい体制となっています。」その次、「民間分野でも個別の優れた事業はあっても大きな規模での展開は実現できていません。」とありますが、「民間分野」と、「大きな規模での展開は実現できていません」というのは前後の文章で、言いたいことが今一つわかりません。

○野田委員長

言いたいことが今一つわからないということですね。事務局お願いします。

○事務局（平野課長補佐）

今の御指摘ですが、茅ヶ崎にも優れた民間企業がございます。ただ市が民間企業とのコラボレーション、民間と手をつないで一緒に文化の向上に向けて、発展の寄与にタッグを組んで、そういった文化学習事業が展開できていないという現実を申し上げました。

○野田委員長

大きな規模で、というところが、もう少しこなれた表現に変えたほうが良い。例えば多様な、とかそういった表現に。

○事務局（平野課長補佐）

大きな規模でというのは抽象的すぎるので、多様な範囲での展開ができていないという表現の仕方を変えさえていただくか検討させてください。御意見ありがとうございます。

○野田委員長

加藤委員よろしいでしょうか。

○山口委員

今の加藤委員の話にふれてですが、例えば保存、明治とか大正の建物、最初に茅ヶ崎館を国の指定にしたいというときに非常に苦勞して、そのお手伝いしたときに、茅ヶ崎館の図面も無くて、そこから学生と一緒に図面を作って、どこへ出して良いのかもよくわからない状況でした。

大きな規模での展開というのが、引き受けてくれる、最終的には市がそういう書類を採用しないといけない、県に持っていくとか、この書類をどこへ持っていったら良いかわかるよう、私の経験だけではなくて、窓口になるようなところをきちんと見たほうが良いと思います。民間の大きな規模の展開も実現可能ではないかといった表現にしてはどうかと思っています。いかがでしょうか。

○事務局（平野課長補佐）

御意見反映させていただき、加藤委員の御意見も頂戴しましたので合わせて検討させていただきます。ありがとうございます。

○野田委員長

民間と協働というところも、抽象的には表現しても、具体的にどういう分野で、どういう案件で、何が出来るかといったところで、さまざまな違いが出てきますので、事業をやっていくなかで相談しないにしても関係を作っていくことと、目標を民間の活動される方と行政の方で、ある程度共有していくビジョンづくりが大事かと思います。そういうことが進んで行くと専門職の話も具体的に行政にあがってくるのかと思います。そのことに関して表現を修正したほうが良いとかありますか。

○山口委員

コロナ後もオンラインでやっていくとか、どういうふうに活動できるかというのがまだわかりません。

協働事業というものを、今まで補助金ありきでやっていましたが、市でしかできないこと
ってあると思うので、補助金をあまり考えずに協働事業できないかという方向性を具体的
にもう少し考えたいと思います。

○野田委員長

今後の課題として引き続き、ぜひ具体的な事業が進むなかで、切り開いたら良いと思いま
す。他にどなたか御意見ありますか。

○大島委員

特にないですが、加山雄三とか、小津安二郎とか10ページの「2 新たな文化生涯学習
施策」の下から5行目、「目指すのは2030年。」のところですが、全然問題ないと思いま
すが、21世紀にクリエイター輩出できていると思いますので、過去の20世紀の人物だけ
あげるのではなくて、もう少しゆるければどうでしょうということところです。10ページの1
0行目の部分は、良くわからなかったのですが、民間分野と連携がとれていないのか、連携
がうまくいっていないのか、そういうことなのでしょうね。

市の庁内各課が財政悪化でお金がないことを理由に、事業を縮小、中止していましたが、
加藤委員と同じ意思で民間分野と連携が上手くとれていません。

○野田委員長

2点指摘がありました。開高健、小津安二郎、加山雄三など、ゆかりの人物館で表現され
ているけれど、この点どうなのということと、大きな規模での展開、先ほどと同じですが、
大島委員の視点から御意見ありました。おそらく開高健などの話は枕詞的に、茅ヶ崎館もそ
うだし各分野のクリエイターやアーティスト、文化人を輩出していますよ、それはゆかりの
人物館でやっていますよというところで一回切って、そして受ける形で新しい人材を育成
して、やっていきましょうというところで、再度切って、その後、第二第三の加山雄三みた
いな人材を輩出していかなくてはならないと分けて表現を直したいと思います。いずれに
しても表現をもう少し考えていくことでよろしいでしょうか。

2点目の民間との連携のところ、書いてある主旨は、市の文化資源の所管が分散していて、
連携がなかなかとりにくいところがあるということと、行政と民間の連携についても、民間
独自でやるより、行政と連携したほうが、効果が高くなると思われるものもあるが、なか
なか連携できていないというところを書こうということですね。大島委員の意見をふま
えながら修正したいと思います。

○井上委員

20世紀の茅ヶ崎ゆかりの人物は、21世紀の現在、今の小学生、子どもたちだけでなく
大学生でもわからない。

美術の世界で活躍している人も多くいます。そういう活動している人をもっと前面に出しても良いのではないかと。また、桑田佳祐だけでなく、現代作家も含めていただいてもよろしいのではないかと。そういった活動をされている方々が茅ヶ崎にいますし、後のパワーにつなげていけたら良いのではないかと思います。ぜひ若い世代についても積極的にとり上げて欲しいと思います。

○野田委員長

若い人も入れたらどうかという提案ですね。ぜひ検討させてもらいます。いきなりセンスが問われてしまうので難しいのですよね。清水委員、御意見ありますか。

○清水委員

本日は用事があり遅れまして、申し訳ありません。皆様のお話を伺えていないので、後から意見を述べさせていただきます。

○野田委員長

もし気が付いたことあればまたお願いします。

○都委員

答申案の中になんか学校連携について入れてもらっています。これは重要なことだと思います。これから文化を担っていくのは子どもたちだと思っていて、その子たちにどういうものを経験させるか、というのがすごく大事だと思います。その中で、例えば連携していくにも、実際に具体的にどう進めていけば良いのかというところを考えていかなければいけない。

現在、教育委員会では、コミュニティスクール事業を展開しています。そこで連携できたら更に良いのかなと思います。

○伊藤委員

さっき言ったやる必要があるからやると言いましたが、具体的に茅ヶ崎市で文化芸術に携わる団体があってどういう活動をして、というのが具体的なリスト、一覧、団体もそうだし、いろいろなジャンルの芸術に携わるようなものが見えてくるとやる必要があることが見えてくるし、いろいろ良い活動されている団体がいっぱいあるので、見えるように表現されると良いのかなと思います。

○野田委員長

文化活動というのは、あくまで市民主導なので、行政が旗降ってやるものではないので、いろんな活動されている方や団体がいて、それなりの良いことがいっぱいあると思います。

そういったものの検証、見つけてきて一緒にできることを一緒にやるというのも大事だが、行政の中ではルーティンの仕事もあり、そこまで踏み込むのが難しいところもあります。なかなか民間の活動のようにフレキシブルにいかないところもあります。みなさん委員の方から注文つけていただくなり、議論いただくなりしたほうが良いと思います。今御指摘いただいた活動がある団体、個人がいるよということが基本になることは間違いないです。

沼上委員は音声の状況はよくないそうなので、発言は御遠慮されるそうです。

○山口委員

伊藤委員がおっしゃっていることは良いと思います。みんなの気持ちを1つにして、ということを考えていくべきです。

文化生涯学習プランを作成する委員会としてスタートして、今現在は答申を、そしてこれからプランを推進させていくと、その前は事業評価をやって、検証して、検証の結果それをプランとして推進させていくというところにあつたと思います。施策をまとめて、プランを新しくどのようにするかについてはみんなで考えていくべきことであります。

○清水委員

茅ヶ崎の現在における文化人や団体、文化財・建築物などをリスト化するべきだという要望は、だいぶ前の会議でも山口委員が仰っていましたが、まだ実現していないのは残念です。

○野田委員長

ありがとうございました。では、本日いただきました御意見を答申案に反映させて、市長への「答申」とさせていただきたいと思いますが、その作業につきましては、委員長の私と事務局に一任させていただいてよろしいでしょうか。

○全委員 賛成

○野田委員長

ありがとうございました。では、議題2「その他」です。事務局から何かありますでしょうか。

○事務局（平野課長補佐）

今後の日程について、御案内させていただきます。

本日いただきました御意見を委員長と反映させていただきまして、令和4年12月6日（火）の16時から16時30分の間で市役所分庁舎5階特別会議室にて市長への答申を行いたいと存じます。

答申を市長に御渡しし、その後に懇談のお時間を取りたいと思っておりますので、当日に

出席を希望される委員の方がいらっしゃいましたら事務局にお申し出ください。こちらの御案内は会議終了後に改めてさせていただきます。

また、その答申の時間の中で野田委員長から提案があるとのことですので御説明をお願いできますか。

○野田委員長

今日みなさんから頂いた意見を最終調整し、12月6日(火)の16時から市長に答申を渡します。御都合つく方いらっしゃいましたら、一緒に御参加ください。御参加いただける方は会議後に確認をとります。あまり時間がないですが私が少し時間をいただいて、答申のあとに市長にもみなさんにもプレゼンしたいと思います。答申は3本立てですが、これまでを踏襲して充実させていく部分と新しく取り組むべき部分になっています。私から新しく取り組むべき部分について、どういうことをやろうとしているのか、どういう考え方になっているのかということについて簡単にプレゼンしたいと思います。答申案の資料に沿って言うと11ページくらいから12ページにかけて書いてあることについてお話ししたいと思います。もう一度目を通しておいていただけたらと思います。

みなさんから何か御意見ありますか。

それではこのような形で答申をすすめます。

○事務局(石井課長)

みなさま本日も大変熱心な議論どうもありがとうございました。答申ですが今御案内ありましたように6日に市長に直接お渡しする形としたいと思います。市長のお考えを聞きたいという御意見ありましたので、こういう場を設けさせていただきました。御都合つく方はぜひ御参加ください。

6日が最後となると思いますが、みなさまの任期が12月15日までとなります。所属の団体様の方には次期の委員の御推薦をお願いする通知を出させて頂いています。とりあえず本会議としては任期として今日が最後となります。コロナ禍で制約があったりしましたが、今日もリモートで御参加いただいたり、色々な形で御協力いただきまして、大変感謝いたします。ありがとうございました。交代される委員の方もいらっしゃいますが、今後も文化生涯学習の分野について御注目いただき、御意見あればいつでも事務局の方にお聞かせいただけたらと思います。今回の会議をもって任期終了ということで、この場を借りまして御挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

ではこれもちまして第2回文化生涯学習プラン推進委員会を終了いたします。